

東京日々新聞

九百四十号



山々亭有人記

武剛秩父郡上野村の農泰平が毒おち家所さの

娘多れ有名代の淫婦あり

秩父結の小夜衣重ね

着るす事もあるれど

名泰平も己が

治るはしと重ね

着の洗濯もせりし

ふと又もや去年の上月の末同村の笠原

流助が持つけり笠原も竹の子笠の竹のうぐい

本笠の木ら後笠原のけけり断る汗小綿さる笠原の

縁多縁多をりふく然る泰平之と見出し好き好きと

縁多縁多の木の陰でお暮るも本意あん我も其生木を裂ト

とて酒二升を結納し壹升中よく暮せよと與つ

以て追出せり家附さ娘あり

と身持ありけまへ

事忍ふ及へり四方

の姉さん達

はしし

給へり

具足屋

渡辺彫衆

萬齋
芳幾